平成２５年度 科学研究費助成事業（特別推進研究）
追跡評価結果

研 究 課 題 名	現代日本階層システムの構造と変動に関する総合的研究
研究代表者名 （所属・職）	佐藤　嘉倫（東北大学・大学院文学研究科・教授）

【評価意見】

本研究プロジェクトの最大の意義は、社会学分野における実証研究として、1955年以来、10年おきに調査されてきた「社会階層と社会移動」研究を継承するとともに、これまでの課題であった国際化対応に積極的に取り組んだことである。

特に、日本が中心となって台湾・韓国と共同で社会階層システムの調査を実施したことは、階層研究に新局面を開拓したものとして評価できる。実際、本プロジェクトにより、社会学分野としては英文で書かれた論文や編著書が多数出版されており、国際的な認知度が顕著に高まったといえる。

また、本研究は「移動レジームの変容」概念を基軸に、雇用市場システムの構造変動に焦点を当てて、新自由主義的なグローバリゼーションと少子高齢化の波のもとで、若年労働者の失業問題、非正規労働の拡大、格差の拡大、社会保障の機能不全などにまで踏み込んで分析しており、経済学とのコラボレーションの道を開いた点で評価できる。今後、移動レジームの変容を社会学的な視点から掘り下げた研究が期待される。若手研究者も本プロジェクトに多数参画しており、本研究が階層研究の世代継承をも着実に進めていると評価できる。本研究データにより得られた成果が、かつての研究に存在した「中流社会の成熟」や「不平等社会の到来」といったキャッチフレーズ的知見ではなく、「移動レジームの変容」として「階層構造の安定化と流動化の共存」と位置付けられているのは時代状況を学術的に反映したものとして納得し得るが、今後更に踏み込んだ特徴付けへ向けた絞り込みが期待される。